

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し、御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、4月中旬に実施されました標記調査の結果につきましては、過日、6学年保護者の皆様に個票を配付しておりますが、さらに、校内での分析も終え、本校全体の児童の課題や改善の方向について下記の通りまとめましたので、保護者の皆様へお知らせいたします。

本 校 の 概 要

今回の調査における課題

改善の方向

知識及び技能

□言葉の特徴や使い方に関する事項

→全国平均に比べ、下回っている。

□情報の扱い方に関する事項

→全国平均に比べ、ほぼ同程度である。

思考力、判断力、表現力等

□話すこと・聞くこと

→全国平均に比べ、ほぼ同程度である。

□書くこと

→全国平均に比べ、下回っている。

□読むこと

→全国平均に比べ、下回っている。

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか。

■考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるか。

■資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか。

■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるか。

■文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

○漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにする。

○話や文章を理解したり、表現したりする上で、考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味する。

○聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような情報を求めているかなどについて考えるなど、相手や目的を一層意識して表現を工夫できるようにする。

○文章全体にどのようなつながりや配列があり、どのような効果があるのかを整理して、児童自身が目的に応じて書き表すことができるようにする。

○文章を読んで理解したことを自分の経験と結び付けることができるよう指導する。

□数と計算

→全国平均に比べ、ほぼ同程度である。

□図形

→全国平均に比べ、下回っている。

■日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるか。

■立方体の体積の計算による求め方について理解しているか。

○日常生活の問題について、身の回りのものを図形として捉え、図形を構成する要素に着目して考察できるようにする。

○立方体の体積が一辺×一辺×一辺で求められることを理解できるようにする。

□測定

→全国平均に比べ、下回っている。

□変化と関係

→全国平均に比べ、下回っている。

□データの活用

→全国平均に比べ、下回っている。

■示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるか。

■単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるか。

■示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるか。

○示された情報を解釈し、数量の関係に着目して、筋道を立てて考え、計算などの処理をして求めることができるようにする。

○二つの数量の関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする。

○統計が正しく集計できているかを確認し、誤りの有無の根拠を、表やグラフ、集めた資料の数を基に説明できる異様にする。

全国平均より肯定的な回答が上回っている項目

◇朝食を毎日食べていますか。

◇学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

→30分以上やっている子の割合

◇5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

◇5年生までに受けた授業では、国語の授業で先生はあなたのよいところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか。

◇算数の勉強は得意ですか。◇算数の勉強は好きですか。

◇5年生までに受けた授業では算数の問題の解き方が分からない時はあきらめずにいろいろな方法を考えましたか。

「毎日の朝食」や「放課後の学習習慣（30分以上）」で全国平均を上回る結果となり、ご家庭での規則正しい生活や学習への手厚いご支援の成果が表れています。また、授業での「ICTの活用」や国語での「成長を認める価値付け」を進めてきたことで、算数における「好き・得意」という意識や、難問にも「あきらめずに多様な方法を試す粘り強さ」が高まっていることが分かりました。ご家庭と学校での取組が子どもたちの自信につながっており、今後も一人一人の「主体的に学ぶ力」を伸ばす教育活動に努めてまいります。

全国平均より肯定的な回答が下回っている項目

◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

◇分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。

◇学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

→全くしない児童の割合

◇授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、活かしたりすることができると感じますか。

◇総合的な学習の時間ではPC・タブレットなどのICT機器を使って、上手く情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか。

◇普段一日当たりどれくらいの時間スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機テレビなどでSNSや動画視聴などをしますか。→3時間以上の割合

児童質問紙の結果から、「SNS・動画視聴等が3時間以上」の児童の割合や「読書を全くしない児童」の割合が全国平均より高く、メディア利用のルールづくりや読書習慣の定着が課題となっています。また、「自分と違う意見への関心」や「自ら学び方を工夫する姿勢」、「学びの実生活への活用」や「総合的な学習でのICT活用（情報収集・整理・発表）」においても全国を下回り、学んだ知識を活用・探究する力に伸びしろが見られます。今後は、一人ひとりが興味を深められる読書環境の充実を図るとともに、対話や探究活動を通して「自ら考え、学びを活かす力」を育む授業づくりに努めてまいります。